912.3
7

十二冊目

節5終

わき

[illegible]

[illegible]

[illegible]

へき物の拙ねうひなき者の僻言まうし
世中をまうす也 [illegible] 世中をまうす也 [illegible]
世すてゝ世間を捨て我元の親兄の孔を
おもんゝ [illegible] 邪を [illegible] きまうす
世界の偽りなる世中を作 [illegible]
今日 [illegible] 上 [illegible] 大物の浦へと [illegible]
世 [illegible] 文治の初つかた頼朝義経不仲

のゝ院落居しのち 利尻
近の道狭くなりぬ [illegible] 邪の方へ
[illegible] 上 [illegible] 雲の月 [illegible]
[illegible] 邪の名 [illegible] 年平家 [illegible] 邪
[illegible] 惟 [illegible] 余 [illegible]
[illegible] 雲 [illegible]
なき [illegible] 上 世中の人 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

波はら寺よりまつの山後へ武蔵うまては
小面葛籠
天蔵扇
若ふ山へ参りたまへ武蔵殿と何のゐ
若ふ山後めくはそ　さんは唯と事事後
乃後ふあるすぐ我若の山宮すへ先ちこの山
事御弥陀如ふ山食事作さうまるかたこ
のまうとちとのき体ちまん事ゐ合
後へかまとはる先ちまる事へ後あまとの

山事まて作　先ちまへのかあ山作ふ
何ちまとも山後とあまるまに形そも
ここここここここここここここ
ちまくる見ちひとのんあ何ちとの山
後作ちあくは撥山事事ちへ何とり上
はへち　事山後口ふ若の山ちふ事ふ成て
中まるまはへ　若事ふやはちまと
へ宮百神は唯山ふ面まちまふんまうて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

唯[illegible]

我世中[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同上

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月徒居士

脇二人　男素袍袴ナリ扇

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古造営の法式を流法。今日活形と唱えて
あるいは流時刻に成しかば、等師、宮殿
に向うて、教形の種打始し。法ちと教
代義を松田年石室号、三世の法仏
京の薩摩ホトケ向うさく、無弥、命ろ樂
若人絞 教自更号訓誦乃半、三室衣
俗の出布施一裏、古志ゑ、二親聖、夏形

言拙の為、分乃代衣、三室に借書
しまう。向うの面白、分の代衣、中ろ、
うの。皮面天乃、貪女ろ、家と俗ホ仏
書せし。色、分の後の世の逆善。今乃他
善ゑ親の為、分の代衣うゑ、見しき
ノ。法世中、ととくて、先孝先祖ろ
ろホ初の、裏に生ゑん、後あけ

[illegible]
[illegible]自然居士[illegible]深く神をあがめ[illegible]
数[illegible]穢[illegible]色[illegible]の神をあがめさぬ人なし
[illegible]
[illegible]れいあそあれ[illegible]
き者すくひ[illegible]
いだ[illegible]
[illegible]
[illegible]
の風俗[illegible]

人[illegible]
とのあ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

らふするよ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ

[illegible]

あく書面し何とく　また[illegible]とハ

道理く甚敷あく櫂乃事ハ　櫂

[illegible]

水をかく流といふ事[illegible]

さなきふ　[illegible]櫂乃震をハ一震二

震一塩二ちかんといへハ今漕そむ可私

[illegible]ハ[illegible]ひ無ハ雖事う　実面の

を[illegible]へらまたうちうく何れ用[illegible]

[illegible]自然[illegible]といふ流法なる流法の

場をもつ[illegible]ハ[illegible]流

法ハ道理をの[illegible]我に雖事ある

ものを　[illegible]雖事ハ[illegible]

角ふをのの独[illegible]

てかつ[illegible]

八々人生業の中小かるき大法のは
拵て八何とやさしき法をしてはそ人成
賞れなく。こゝろむ高へかゝるぬ法をしては
法の上ハとかくとゝかゝ及すは又は法のとく
業の中にもかるき法乃作をまとる
何とゝ事をしてはう かるに勇を拵
人をたゝ事に事ハく無事ゝ孫を大

家をかゝ事ゝ為ハ石祥をしてなゝかゝ
寺へかゝるぬ大法をしては孫小なゝ事。
はゝとゝまてゝ下は打く陸奥をとゝへハ
ゝ為ハ船をおく事ハ為ハ事ハ為ハ
為ハに為りゝて拵訴をいたゝう 拵訴
とハ何事そ 為をとゝらう 為なる
拵為のもゝとゝもゝまゝ為を石

まいらへ　をてい南よりは自然長安よりつゝ
りてあつらへそれは　撥花ハ何とゝ仕候き
哉　長ハ琴の上ゝ与と形ち可申。琴之長巻は
て数こになりり。之後彼者をはなれて
まうしと存ハ　琴をもさうゝ形ハ可申
数こに分りり。之後後をふまを尚すれは
なゝ　自然長安より江あらはへ

まうらゝ　ハ毎ゝりおかりは尚　乗ハ乗ハ
小ハゝへハ何のまうちのはへき　あゝ乗長
の如形の長ゝそなをつてはへ　いやく
ちゝと自をすゝすはゝ毎ゝのゝはゝ
長ハゝゝのことく琴の上ゝ生地ゝは琴
をまりてはみ世はへ　長ハかゝの長く流
弾をこゝそすまゝ琴まふたる琴ハなくは

角
八

わざ
はかりごとの伝授やはかりごとの
因果やはかりごとの
業をもとめて
業はへて
はかりごとをなすべきことは
りん わざ 若し業まふ人商業ハなきを
伝はるべしと云ふ
ふてはふ 面を
飾りふつまなふ渡るは わざ 何ふつまる
あはへき 志賀業渡る一杯 雑業

人乃ふ乃 業 わざ 三注ヲ上 あまりふ業のみふ
てんたるもはふふ はかりごとふ船の
因果業事をもはへ
実に又業を
はへ商逆法あり
志はふよ為はといふ海を渡て貴へき船
もかりに 業 と典 業業事七注ヲ下ふ貨物
といへ商古事あり。五時貨物逆上上ふ池

の面くもとゝ見せ侍る秋の末なる
小宰相局小貫柳の一葉水かうみ
しくゝ蝶といふもゝ色を屋敷小蔦也
河ゝ葉一ぱいよりふ等門ぶ東くゝ小藤
盤ゝとなくも柳乃紫を映ら河
風ふちをれ小ぶ小ふ秋雨の立る
柳の面ゝまゝ実ゝ色ひ動ゝ

尽くゝ紅ゝ色ゝ芙蓉花にあらぬ
くゝ馬ゝ汗ゝ濃ゝ渡ゝて出ゝ色ゝ屋敷ゝ
ゝ乃ゝ河ゝ代ゝ浩ゝ行ゝ平ゝ一ゝ美ゝ子ゝ歳
ゝゝ弧ゝ世ゝん字ゝ字ゝ
ゝゝ書ゝう子ゝ子ゝ舟ゝ
舟ゝ屋ゝ屋ゝ屋ゝ
ゝゝ河ゝ

所を志賀の浦なる人ハ大江 [illegible]
幸海の松のうゑをきしをしらるゝ
さしつゝ [illegible] 数隙なくまれハ編木
ようなるものもとゝもとまるもの今ハたすけて
ひかへ [illegible] てのゆゑにかゝることを
いかんせんへ [illegible] 後を思ひとなりぬ [illegible]
[illegible] 山賊を [illegible] 菜を四の名

[illegible] 四金古歌のなかに取あつめ
[illegible] 八歌をせうらんゆへ 菜四の
[illegible] 日上 [illegible]
[illegible] 数を波の
[illegible] 上 [illegible] 数を波 [illegible]
[illegible] 弥の
[illegible] 海
[illegible] 面を
[illegible] 時を海面
[illegible] 竹の編木

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　脇僧[illegible]人　角帽子　水衣　腰帯

[illegible]　時数扇

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の作　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同上

史ハ柳元ハ橋史ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるこの山の方角は北東の峯に
法命坊名づけひえの大嶽かすう
んのさとうつ月の樣なのあるを
なを四方八金剛よりも尺高く富士の
人となりて蓮華や高のやま
山ちうの峯高やかなる富士の高根
のあり川に雪のきえる時もあり。

ちうの狐ひ鳥りそんゑ丸ちあのさら
ちらくさらくとまりくハ風ひ強て
いうそ人山と峯し雪とも鳥り海ハ雲ハあ
ゑ傳のあひ雲高うまてちよ今ようひ
ちらさりと拾てさらあ雲嶽傳の
つ雲ちせそ仏石つ雲ちせそ仏石
の海のの出高うれうきるく

わき付

若狭

て女面長鐵扇　子小袖長袴扇
腸山伏ゑ市　ケ井ゑ衣　大巳少刀　腰平　扇

毛八弟と熊野ゑ住居する者侍ゑくゝ。
都ゑ度家入。七位ゑ切き中子ゑ一人持て
ゝゑ文ゑ知ゑ毎一人ゑそひ垂てゝ姫ゑゑ
使ゑ狩ゑ立殺波者ゑ狩毛ゑせゝゑと
あゝゝゑゝゑ内ゑ案内ゑゝ　子　彼ゑくゝ入ゑ
そ度師近の出ゑくゝ　わき　何ゑて狩狩

横入の山作り入へし　唯とも毋の山
茶うそとりとく　おきあき者の作せうす
作めていなくは　書と毋の風のくゝ
ゐ　ごとくとの色うゝぬをうそは　毋
この風をくらふ山入へ　をそは　のたな
袖うすは　袖は　袖は　はそ
ハ　ゐる毋ゐ　山へし　又　そは

山とらは　袖　袖　毋　毋　入
中　作は　とと　とく　あきあき者の
作せうす　乃　そな　書　風のくゝ
のとは　袖　のたな　作　そ
袖　袖　書　毋　山へし
先ハ　袖　師　の山作り　入
せむ　そむ　毋　とも　乃

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

なくてやとうふきんへ[illegible]
[illegible]
[illegible]
中くに死別なくハう縁の親きこうもあくしき
一切うぬの世の習ひ如夢幻泡影如露亦如電
應作如是觀のんぢ[illegible]
[illegible]
[illegible]

てはあるいはふすまをあけて若くは先へ
はいるへ樂は行のり立ふまるあてはあ先ハ
作あてはへ共ぜんをの山ふまりてのとて余
の山伏の立はへさだ〳〵あてはあるへ先素
して已はんはへ松小ゆり拔出れ如ハ行
ちへき殺さを出いをあり〳〵をとすてはあ
あ我〳〵ぞ乃小行ひて殺りはへ小殺き

却あくはいう小愛里はう何事あてはあ先
迷へはあるあをとはへハ小乃山殺ミあて
病氣殺ミをあり〳〵をぜん迷ぞを出行
小おこあひ女あの山事あくはう根何と法は
へを見ぜんをの山殺ミをあてはば樂ゆ殺ハ寿
月れはをもうのあるあくはへ殺ハ
のはく松ゆ長ををいをあをとあを

也あるいは（谷）芝八郎ようしゅ（ぶ）ぶ山ん生まれ
するあくびょうてん逆ふかは（わさ）何事ようてい
谷（谷）やさ生ぶ八ぶ熱さ起ようてんぶ年月のこうう
くもどうのあるようてうぶへつ彩ぶ山ぶう
ようて松ふ反をこ二度そせいさ生ぶやあまて
ぶ若やさ生ぶ（わさ）さうのあをこうぶまれ
ぶうぶへぶ山のさん神こおう音神なしぶふ

石動ぶまれさうくふうまて松ふをこ二度そ
せいさ生やさうさ動ふくぶ方こをかをそへ
くぶうぶへ（先）ふるやぶ（三元）和を師匠のを
熱ぶ理ぶうを面のさ面をぶん学を同しん
ぶ（わさ）さうをを年月松をくを長ふ八石
動ぶまれ威力（五元）又八山神こおう音神
（わさ）ぶへ八開山ぶんのうそくく（三元）あひうん細寺

わき　行者　役者乃器物のきこくをきゝよ
をつゝりたまひおりまを面　鏡厨子　行者　物衣　太口　三人　杖　一本　くを
きんをうの山路をもしくをもて　行者　三と
くりめいあんを悪しをやをるいらしよ　家の
上まへ　長ゆの月ゆかりゆかりてゆをるゆ面
を　上　をまをしやをくまをひゆんをうをく面
をををうををんをうぶをきんをうくをうをうをん

いふ面く怪ふをけ皮書八角ふあをなる
親者りの人神ゆをへ　をもを命をとた
ををるゆりゆやすれんをよ　わき　あをを雅
の出事や面をうをふ浮るへゆをなを行者
ふゆをををゆ　行者　行者　行者　をを面をうを
をを重よ　年　ゆり面をうをうを面をて　わき　をん
ひをへ書　行者　行者　一回上　霜とをふ　若城山の名をを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第 77 号 受入 36. 3. 14

此本者下掛り新板改正
并衣裳付秘蜜を抽ん
章句写を全用板行也
正徳四甲午暦泳生吉日
彩町通下長者町上ル町
洛陽書林 谷口七左衛門
仙蔵 七郎兵衛